

## 令和２年度 第２回静岡市中小企業・小規模企業応援会議 議事録

開催日時	令和２年８月６日（木） １０：００ ～ １２：００
開催場所	オンラインによる開催
出席委員 ※五十音順	青山達弘 座長、稲葉豊穂 委員、大谷裕紀 委員、佐藤由貴 委員、 高橋節郎 委員、竹内佑騎 副座長、手塚光里 委員、仁科満寿雄 委員、 松下恵美子 委員、八木邦明 委員、矢部田久幸 委員、山崎かおり 委員 （１２名）
欠席委員 ※五十音順	中野真吾 委員、仁王尚夫 委員、深田浩介 委員（３名）
静岡市出席者 （事務局）	大村博 参与兼産業政策課長、松浦康弘 課長補佐兼企画係長、 福與敬太 主任主事
<p><b>１ 開会</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開会に当たって、以下３点について確認を行う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>①委員の出欠席状況について <ul style="list-style-type: none"> <li>・委員の過半数（１５名中１２名）が出席していることを報告。</li> </ul> </li> <li>②会議の公開について <ul style="list-style-type: none"> <li>・委員から本日の会議について公開の了承を得た。 また非公開とすべき事項が生じた場合は、その都度協議することを報告。</li> </ul> </li> <li>③会議録の作成について <ul style="list-style-type: none"> <li>・会議録を作成し、市ホームページで公開することを委員から了承を得た。</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul> <p><b>２ 青山座長 挨拶</b></p> <p><b>３ 自己紹介</b></p> <p><b>４ 今回会議の目的について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局より今回会議の目的が以下の３点であることを説明。 <ul style="list-style-type: none"> <li>①コロナ禍における共通課題の洗い出し</li> <li>②共通課題の解決方法に対する意見やアイデア出し</li> <li>③市へ提案する意見の素案の検討、提案</li> </ul> </li> </ul> <p><b>５ 議事</b></p> <p>○情報交換</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症で得た教訓や実施した取組について</li> </ul> <p>＜山崎委員＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・女性の事業承継者の支援に特化した相談窓口をこの４月に立ち上げた。女性経営者の女性ならではの課題等に経験者が寄り添って支援していくことで、事業承継の問題を解決していこうと取り組んでいる。</li> <li>・もう一つの取組として、「しずおか愛」を若い世代や子ども達に伝えていく、育てていくというテーマに対して、リアルでやろうとしていた事業を転換して「しずパレ」という静岡</li> </ul>	

県特産品の仮想テーマパーク（EC サイト）で売っていかうと取り組んでおり、9月中旬にオープン予定。

#### <矢部田委員>

- ・静岡市清水商工会では、コロナ対策相談窓口を設置し、持続化給付金などの申請サポートを行っており、高齢者を中心に現状は予約でいっぱいになっている。
- ・由比地区は水産加工業者が多いので、コロナとは別に桜海老の不漁によるダメージも大きく、コロナとダブルパンチの状況となっており、給付金等の申請をしてこの場を凌いでいる状況。

#### <八木委員>

- ・教育の部分で、企業と連携した地域探求型の学習プログラムの実施を始め、8社の企業と7校 560人の中高生で実施しており、協力する企業側のリソースをまだまだ探している。

#### <松下委員>

- ・紙の卸売業をやっているが、コロナ禍で売上高、また販売価格ともに減少している。
- ・コロナ禍の長期化が見込まれる中、販路だけではなく働き方、会社のビジョン等自社の先行きを考える機会と捉えている。

#### <仁科委員>

- ・組合のホームページ等でコロナ対策、支援策等紹介している。  
企業間でコロナへの捉え方やイメージがバラバラではあるが、社会情勢に関係なく基本的な課題や本来の中小企業対策にしっかりと取り組むことが大切と考えており、組合員の皆さんにもお伝えしている。

#### <手塚委員>

- ・会社としては9月までテレワークを実施しており、感染防止対策の徹底を継続している。
- ・売上も厳しい状況は続いているが、地域の中小企業をみると、コロナ前から資金繰りが厳しい企業が、現在本当に苦しい状況になっていると感じる。

#### <竹内委員>

- ・今夏の第2波では宿泊業をやめようとしている所もあるが、逆に「マイクロツーリズム」という形での新しい動きも出ており、その動きも捉え、酒屋やヨガ、サイクリングなど地域の様々なサービス業と宿泊業がつながるチャンスだとも考えている。

#### <高橋委員>

- ・このコロナ禍で「資金繰り支援」が支援の柱の一つとなっており、制度融資の中のセーフティーネット保証の利用が大幅に増えている。ただし、あくまでも「融資」なので借入であるので、今後本当に返済が大丈夫なのか心配をしている。

### ＜佐藤委員＞

- ・ 自社はIT系の企業であるが、3月からオンライン、テレワークで対応しているが、現時点では売上への影響はなく、コロナ収束後もオンラインでの業務が継続する形になると考えている。
- ・ オンライン、テレワークについては誰もが使えるようになることと、利用する上でのルールの徹底が必要と感じている。

### ＜大谷委員＞

- ・ コロナ禍の中で、オンライン相談などの活用や組合内での助け合いが進んだと感じている。
- ・ 組合内からは、時差出勤や在宅勤務などルールがあいまいな中で取り組んでいったため困っているとの声があった。

### ＜稲葉委員＞

- ・ 国の持続化給付金など新たな支援制度が次々と出て、それらの相談対応等に手当たり次第関わっていく中で、これまでお付き合いのなかった企業からの相談も多かった。
- ・ 今回のコロナ禍で対面での対応が難しい中、手取り足取りの支援がしにくい環境であったことから、高齢の経営者に対する支援の難しさを感じた。

### ○グループ討論

- ・ 「①知る・知らせる」「②新たに取り組む」「③学ぶ」の視点から考えるウィズ・コロナまたはポスト・コロナにおける中小企業振興にかかる課題やその解決方法について

### ○各グループの発表及びまとめ

#### ①知る・知らせる ～中小企業・小規模企業の実情を「知る」 市や中小企業等の取組を「知らせる」

- ・ 広く意見を聞くこと、会話することが大切。
- ・ 「知らせる」ことが苦手な企業には、こちらから入り込んで声を聴く支援が必要。
- ・ 企業によっては「知らせる」方法を工夫していかないと課題解決につながらない。
- ・ 「知る」⇒「学ぶ」⇒「行動を変える」⇒「内外に知らせる」のサイクルを回していく必要がある。

#### ②新たに取り組む ～リモートワーク、副業・兼業等に「新たに取り組む」

- ・ コロナ前までは「できなかったこと」が、今は「やらなければならないこと」に変わってきているため、今が新たに取り組むチャンス。
- ・ これまで汲み取れなかった声を改めて汲み取る機会にしてほしい。
- ・ 東京で働く人の環境が変化してきており、副業等で静岡に来る人が増えることで人材が増え、「しずおか愛を育む人」を育てるハードルが下がってきている。
- ・ BCP（特に感染症対策）は planning(プランニング)ではなく、doing(ドゥーイング)の段階の段階にきているため、具体的に実行していかなければならない。

#### ③学ぶ ～学生等が地元中小企業等について「学ぶ」

社会人が仕事上のスキル向上等のために「学ぶ」

- ・企業説明会等のオンライン化によって、IT リテラシーの獲得が求められてくる。
- ・セミナー等のオンライン化により、これまで呼ぶことができなかった講師を呼ぶことが出来たり、遠方の方との交流が容易になったり、時間や距離を気にする必要がなくなったため、社員が参加しやすくなっている。
- ・情報セキュリティを正しく理解することで、データの流出や先入観による IT 化の停滞等を防ぐことができる。

## 6 その他

### (1) 次回開催日程について

- ・令和2年9月上旬開催で今後日程調整する。

## 7 閉会